

実現、可燃ごみの廿日市との共同処理

大竹市では、4月からごみ分別のルールが少し変わりました。どうやら廿日市市にある廃棄物処理施設に運んでいることが関係しているようです。

新しくできた廿日市市の廃棄物処理施設に運び始めたのは、去年の4月からです。これまで大竹市のリサイクルセンターで「もやすごみ」を固形化燃料（RDF）にしていたのですが、この施設ができたのが平成15年。施設も古くなり、新たな施設の改修や整備には、多くの費用がかかります。一方で、隣の廿日市市でも合併前の旧町にある施設を集約化する話があり、両市間で協議を進めた結果、可燃ごみの共同処理が実現しました。それまでは、福山市の発電所にRDFを運搬していましたが、運ぶ距離も隣町ということ、コストも抑えられます。という訳で、探検隊は、大竹市の「もやすごみ」を処理している廿日市市の施設に潜入することにしました。

パワーの源は、「ごみの熱」

廿日市市役所の西側を通過して、木材港方面に向かうと見えてきたの



中央制御室では、施設の各エリアがモニターに映し出されています。まるで医療用の機器で体内を見ているように思えます。中央の真っ赤な炉内は心臓のようにも見えてきました。

入ホッパへと移し、その破砕機で細かくされたものが、いよいよ施設の中核部である、燃焼炉へと運ばれていきます。1日75トンの焼却能力がある「流動床式燃焼炉」2基が24時間稼働。その名前のように炉の底にある砂の層が振動で跳ねまわって動いています。（説明用DVD視聴）

「ごみが砂と接触することで、熱分解し、20分の1に減量します」と波田さんの説明。

高温で燃やす技術で、ダイオキシン類や窒素酸化物などの有害物質の発生を抑えているということですが、理系じゃない探検隊は、「ふーん」とうなずくばかり。

さすがに、炉の中をのぞくことはできませんが、見学エリアにあるモニターは、真っ赤になった炉の中を映し出していました。850度を超す温度の炉は、さすがに熱そう。

さて、ごみを燃やしただけでは、終わりません。「エネルギークリー

が、白っぽい大きな建物、「はつかいちエネルギークリーンセンター」です。何だか舌をかみそうな名前ですが、環境対策への思いが込められたネーミングのように聞こえるではありませんか。海に面し、向かいに宮島を望む敷地内には、ごみ処理の工場棟と、し尿処理施設があります。工場棟1階の受付ロビーに入ると、木材がふんだんに使われた壁面や宮島工業高校の生徒が作った木製のベンチが目を見えます。さすが、木材のまち廿日市です。

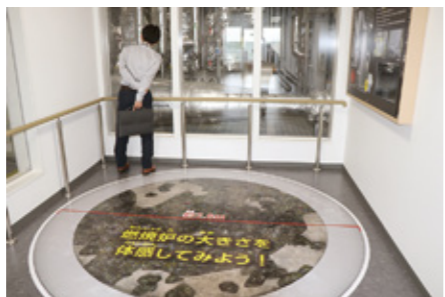
案内してくれたのは、所長の波田誠治さん。エレベーターで4階に上がると、広いフロアが、見学エリアになっていきます。窓からのぞくと、搬入口のプラットホームに、ごみを運んで来るパッカー車や不要となった家具や家電製品などを持ち込む廿日市民の姿も見えます。

別の窓越しに見えるのは、運ばれてきたごみが溜められた深いピットです。幅3・4メートル、約1・5トンを持ち上げられるクレーンが、何個ものごみ袋をつかみ上げ、空中で放して落下させています。ごみの質量を均一にし、燃えやすくするために、こうしてかき混ぜているということです。

「ごみピットは6800立方メートルあり、廿日市市と大竹市から出たごみの7日分が貯蔵できます」と波田さん。クレーンで、ごみをピットから投



大竹市から10トンの大型パッカー車が到着。ごみ受け入れピットに投入します。



燃焼炉の大きさは直径約2.6m。850度を超す高温で燃やします。



施設を案内してくれた波田所長。長さのあるものや発火の恐れのあるものは、「もやすごみ」では出さないください。

最近、目に留まるのが、ごみステーションで、回収されずに取り残された袋です。遠目にチラッと見ても、袋はオレンジ色の「もやすごみ」用のもの。中に入っているものも家電製品やビン・カンのようなものではないか？ 気になって近寄ってみると、どうやら布団が折りたたんで入っているようです。これって「燃やせるんじゃない？ はてさて？」。10数年ぶりに復活した好奇心探検隊が、その謎を探ります。【取材/好奇心探検隊（企画財政課）】



世界は分けたら変わります
～あなたが出したごみの謎～



ンセンター」の名前が示すように、ここからが本領発揮です。何と、ごみの焼却過程で発生する熱を利用して蒸気タービンを回し、発電する施設でした。生み出した電力は、施設や隣のし尿処理施設で利用し、余剰分は、電力会社に売っているとのこと。瞬時に発電量が分かるよう、デジタル表示のパネルがありました。このときの発電量は、一般家庭4466軒分でした。さらに、発生した蒸気を使い、温水にして隣接する都市ガス工場に供給しています。まさに循環型社会を垣間見た瞬間の探検隊でした。

長いものに巻かれないように

しかし、こういった素晴らしい施設も、ごみ分別のルールが正しく守られていないと、故障などで機械の運転停止を招きます。

「皆さんにお願いしているのは、もやすごみ」は、30センチ未満のサイズにしてくださいということなんです。カーテンやシート、ロープなど長さのあるものが、破砕機からまると運転がストップすることもあります。そう波田さんは訴えます。

なるほど、それで「もやすごみ」の袋に入れていても、たんだ布団は回収されなかったのか！「長いものには巻かれるじゃなく、巻きつかれると大変なことになるから」と変に納得する探検隊。プラスチック製の衣装ケースなど

も、機械トラブルの原因になります。しかも「もやすごみ」の袋に入らないことになって出してしまうと、ごみの運転が止まれば、燃焼炉の温度も下がってしまいます。処理の効率が悪くなるばかりか、せっかくの有害物質の発生を抑える機能に影響を及ぼす恐れもあるということです。

「ほかにも小型複雑ごみと言って、機械や家電製品、例えばシェーバーなどが混入していたことがありません。リチウム電池など発火の恐れがあるものは、もやすごみ」では出さないでください」と波田さん。安全な処理のため分別方法は守らなければいけないと、強く感じた探検隊です。

施設を生かす分別ルール

2階のプラットホームに下りると、ちょうど大竹市のごみを搬入した大型パッカー車が、ごみピットに投入しているところでした。バックで投入口の扉に近づくと、センサーが感知して自動で開きます。パッカー車1台で約7トンのごみを積み込み、1日4回搬送しているそうです。循環型社会を支える処理施設ですが、それを生かしていくのは、一人一人が、ごみを減らす工夫をし、正しい分別をすることから始まると再認識した探検隊でした。

【次ページにつづく】

Part 2 プラスチックごみ編

続いて探検隊がやって来たのは、東栄の日本製紙(株)大竹工場です。市内で収集したプラスチックごみは、いったんリサイクルセンターに集められ、それからこの工場に運ばれて来ます。製紙会社でプラスチック？どう結びついて、果たして何に生まれ変わるのか、気になった探検隊。さっそく技術室の土井浩明さんたちに工場内を案内してもらいました。

紙対応のプラ再生法

うず高く積まれた古紙の山々を横目にたどり着いたのは、固形燃料化設備。その脇のピットには、市から搬入されたプラスチックごみの袋が積み重ねられていました。重機で袋をすくい上げ、設備に投入していきます。「平成29年からプラスチックを原料とした固形燃料化設備が稼働しました。自家発電用の燃料の一部として利用しています」と土井さん。そこには、資源を無駄にしないという企業の姿勢がうかがえます。

ラップはプラごみじゃない！

市から搬入するプラスチックごみは、固形燃料に生まれ変わります。ただ、一見プラスチックごみとして、処理に問題がないように思えても、そうでないものもあるそうです。実

Part 3 ごみの出し方、編

ごみの分別や出し方は、「ごみカレンダー」に書いてありますが、日々の暮らしの中で、いざ分別しようと思つくと、迷うものです。探検隊は、市民の皆さん(ほんの一部ですが)の声を聞いてみました。

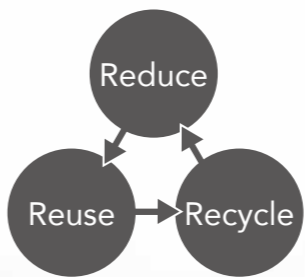
「皆さん、最近、もやすごみの出し方が変わりましたけど、ご存じでしたか？」

「30センチより小さくしないといけないんですよ。理由はよく分かりませんが、それです。」

「幅広や長いままだと機械にからまるんですよ。そうしてますか？」



玖波公民館木彫教室の皆さんに聞いてみました。



収集しなかつたごみ袋には、理由を書いたシールを貼っています。近隣の迷惑にならないよう、各自で持ち帰ってください。

「しまいました。分かってはいたんですが、忘れてました。今、聞かれてドキッとしました。」

ほかにもこんな声がありました

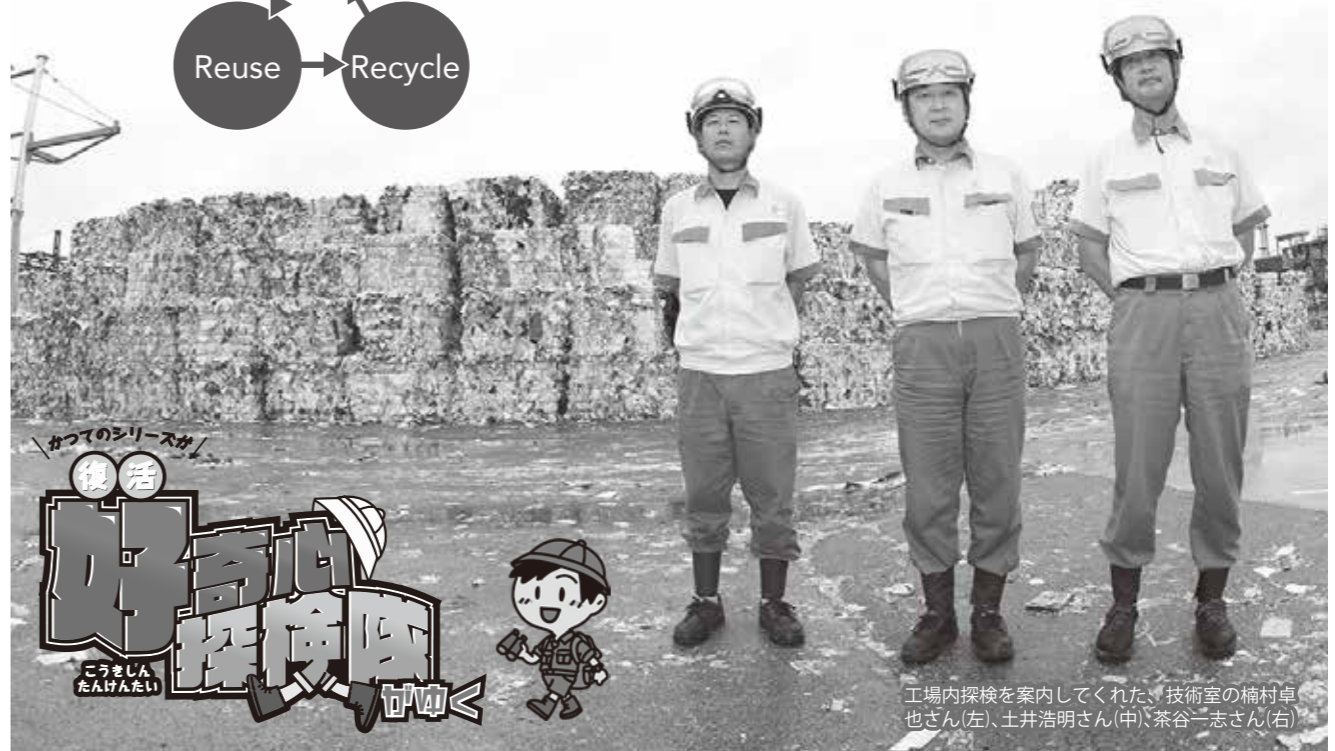
「収集ルートが変わったのか、取りに来るのが遅くなった。(収集ルートは基本的に変わっていません。コロナの外出自粛でおうち時間が増え、断捨離が増えたためか、ごみの量が増えていきます。それで収集に時間がかかっているのだと思われまます)」

「紙資源の日はよく雨が降るけど、濡れても大丈夫？(濡れるのは大丈夫ですが、バラバラにならないように縛ってください)」

「スーパなどで冷凍食品を包む薄いポリ袋は、ごみ減量のため、なるべく使わないようにしています。(ご協力ありがとうございます)」



小型家電(携帯電話、電話機、ラジオ、ビデオレコーダー、時計など)の回収ボックスは、市役所、総合市民会館などにあります。



工場内探検を案内してくれた、技術室の楠村卓也さん(左)、土井浩明さん(中)、茶谷一志さん(右)



リサイクルセンターからのお願い ごみ分別変更後の注意ポイント

「もやすごみ」

◎布団や毛布などで、指定ごみ袋に入らないものは「粗大ごみ」となり、予約してリサイクルセンターへの持ち込みや、市による戸別収集などを利用してください。(ごみ処理手数料がかかります)

◎布団や毛布などの幅広いものは、30cm四方未満に切断し、「もやすごみの日」に出すこともできます。

◎ロープなどのひも状のものや衣類などは、長さ30cm未満に切断し、「もやすごみの日」に出してください。

◎布団、毛布、ロープ、衣類などで、切断が困難であり、指定ごみ袋に入る場合は、「もやさないごみの日」に出すこともできます。

◎衣類、シート、カーテン、タオルなどが多量にある場合は、指定ごみ袋を使用せず、無料でリサイクルセンターに持ち込むことができます。(要予約 ☎525101)

「プラスチックごみ」

◎食品用ラップ、ホース、長靴などの塩化ビニール製品は、「もやすごみの日」に出してください。

◎マヨネーズやケチャップの容器、残飯のある弁当がら、食品パック、

はついでこの間まで、探検隊も食品用ラップは、プラスチックごみだと思っていました(汗)

「食品用ラップなどの塩化ビニール系の製品には、塩素が含まれており、機械が痛む原因になります。洗剤も同様です。また、食べ物の残りが付着したトレーやパックなどは臭気の原因となり、近隣地域への迷惑になります。それ以外にも金属類、工具や乾電池が混ざっていたこともあり、機械の故障を招きます。」

「小さなことでも積み重なると大きな負担になって自分にはね返ることになります。一人一人が気を付ければ、住みよい社会になるのではないのでしょうか。土井さんは、そう静かに語ってくれました。」



(上右)市内で収集したプラスチックごみ。日本製紙に運ばれてきました。(上左)プラスチックごみの袋をすくいあげ、固形燃料化設備に移していきます。(左)カンや「もやさないごみ」のハンマーなどの工具が混ざっていることもあります。

トレーなどで、汚れや臭いの残ったものは、「もやすごみの日」に出してください。

◎灯油ポリタンクや衣装ケースなどの硬質のものは、「もやさないごみの日」に出してください。

※太字が、今回、取り扱いを変更した事項です。



リサイクルセンター長の笹野です。正しい分別をお願いします。

ホームページ・スマホで確認

厚生労働省新型コロナウイルス感染症に関する情報



環境省熱中症予防情報サイト



7月1日▶8月31日は食中毒予防月間

「つけない」「ふやさない」「やっつける」で食中毒を防ぎましょう

問い合わせ 保健医療課 ☎59-2140

高温多湿となる夏場は、細菌を原因とする食中毒が最も発生しやすい時期です。食中毒は飲食店などだけではなく、家庭でも発生します。食中毒予防の3原則を守って食中毒を予防しましょう。

食中毒予防の3原則

菌をつけない

- 手洗いを徹底する。
- 加熱せずに食べるものから先に調理する。
- 生で食べる野菜はよく洗う。
- 清潔な器具や食器に盛り付ける。
- 肉や魚を扱った後のまな板や包丁はよく洗い、熱湯などで消毒する。

菌をふやさない

- 冷蔵や冷凍が必要な食品はすぐに冷蔵庫に入れる。
- 冷蔵庫は10℃以下、冷凍庫はマイナス15℃以下に保つ。
- すぐに食べないものは冷蔵庫で保管する。

菌をやっつける

- 食材の中心部まで十分に加熱する。(目安は中心部の温度が75℃で1分以上)
- 調理後、時間がたったものは思い切って捨てる。

食中毒の問い合わせは、県西部保健所(☎0829-32-1181)へ。

3密を避けて熱中症になりやすい夏をクールに乗り切ろう!

7月は熱中症予防強化月間

問い合わせ 保健医療課 ☎59-2140

高齢者、子ども、障害者の方は、熱中症になりやすいので十分に注意しましょう。3密を避けつつ、周囲の方からも積極的な声かけをお願いします。



熱中症とは、体温並みの気候のなかで、汗をかいて体の水分が少なくなることで、体が熱がこもった状態をいいます。特に「気温が高い」「湿度が高い」「風が弱い」「日差しが強い」は、注意が必要です。新型コロナウイルスの発生に伴い、感染防止の3つの基本である①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗いや「3密(密集、密接、密閉)」を避けるなどの「新しい生活様式」が求められています。熱中症予防行動のポイントとして、次のことに注意して、夏をクールに乗り切りましょう!

「新しい生活様式」熱中症予防行動のポイント

こまめに水分補給しましょう

- のどが渇く前に水分補給。
- 1日あたり1.2リットルを目安に。
- 大量に汗をかいたときは塩分も忘れずに。

適宜マスクをはずしましょう

- 気温・湿度の高い中でのマスク着用は注意する。
- マスクを着用しているときは、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲との距離を十分にとった上で、適宜マスクをはずして休息を。

暑さを避けましょう

- エアコンを利用するなど、部屋の温度を調整する。
- 感染症予防のため、換気扇や窓の開放で換気を確保しつつエアコンの温度設定をこまめに調整する。
- 暑い日や時間帯は無理しない。
- 涼しい服装にする。
- 急に暑くなった日などは特に注意する。

暑さに備えた体づくりをしましょう

- 暑くなり始めの時期から適度に運動をする。
- 「やや暑い環境」で「ややきつい」と感じる強度の運動にする。

日頃から健康管理をしましょう

- 日頃から体温測定、健康チェック。
- 体調が悪いと感じたときは、無理せず自宅で静養。

熱中症の主な症状

顔が赤い、意識障害がある、まっすぐ歩けない。

頭がががんとする、吐き気がする、体がだるい。

めまい、立ちくらみ、筋肉のこむら返り、手や口のしびれ、脈が速い、拭いても拭いても汗が出てくる。



おおたけ・ごみ事情 No.24

ごみ収集車内から出火!!

スプレー缶・カセットボンベ・ライターは使い切って出してください

問い合わせ 環境整備課リサイクルセンター ☎52-5101



5月27日に、玖波地区内で、ごみステーションに出されたごみを収集中のごみ収集車から火災が発生しました。当日は、「もやさないごみの日」であり、消防署による火災原因調査の際、燃え殻の中から「スプレー缶」や「使い捨てライター」の残骸が確認されました。今回は消防車が出動し、消火活動を行ったため、幸い大事には至りませんでした。今後、こうした火災が発生しないよう、次のごみ出しルールを厳守してください。

スプレー缶・カセットボンベは「カンの日」

中身を全て使い切って、「カンの日」に出してください。※カンは穴あけをせずに出して下さい。通気の悪い場所です穴あけをすると、引火して爆発する危険性があります。



ライターは「もやさないごみの日」

中身を全て使い切って、「もやさないごみの日」に出してください。

毎月第一土曜日は「ひろしま環境の日」です。「ひろしま環境の日」一斉行動

7月のテーマ やってみよう 省エネ生活! ~不要な照明は消そう~

家庭で、職場で、できることから始めましょう。環境整備課 ☎59-2154

CO2削減 ライトダウン キャンペーン

問い合わせ 環境整備課 ☎59-2154

ライトアップ施設や家庭の電気を消すことで、一人一人が日常生活の中で地球温暖化対策を実践する契機とする取り組みです。

とき 7月7日(火)まで

7月7日(クールアースデー、七夕は、20時から22時までの2時間程度、全国のライトアップ施設や各家庭の照明の一斉消灯を広く呼び掛けていきます。可能な限りのご協力をお願いします。